

# Ecola

イ・コ・ラ

No. 14

発行 2011年5月8日

皆さん、こんにちは！

この冬は本当に寒さが厳しかったですね。長い冬がようやく終わり、やっと少し暖かくなってきた頃に、東北、関東地方では大変な災害が起こりました。遠く関西に住む私たちには、毎日テレビに映し出される被災者の方々の悲惨な状況を、ただ祈りつつ見守ることしかできません。そして、少しずつ復興に向けて力強く動きつつある現地の人々に「がんばって」とつぶやきかけながらも、同時に「私もがんばらなくては」と気が引き締まる思いがします。とにかく、がんばりましょう。今は、みんなで。

今回のイコラは、前号が大会特集だったため、それ以外の前年度の活動をたくさん載せています。

## 平成 23 年度 N P O 法人和歌山県自閉症協会総会

平成 23 年度 N P O 法人和歌山県自閉症協会総会が、4 月 10 日（日）、プラザホープ 3 F 会議室にて開催されました。



昨年度も、多くの活動がありました。が、やはりなんと云っても「全国大会 in わかやま」は大きかったですね。



大久保会長の挨拶

左から、衆議院議員岸本周平氏  
衆議院議員玉置公良氏代理の岸真樹秘書  
県障害福祉課課長石塚和夫氏



記念講演「自閉っ子、こういう風にできてます！」

主催：和歌山県

NPO法人和歌山県自閉症協会

2011世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間講演会

平成23年4月10日 プラザホープ4Fホールにて

4月10日(日)、プラザホープ4Fホールにて、ニキ・リンコさん(翻訳家)と浅見淳子さん(花風社代表取締役・編集者)の講演会が開催されました。参加者数はスタッフを含めて238名と、定員を超える盛況ぶりでした。講演は、お二人の対談形式で行われました。



ニキさんは、帽子とサングラスを着用されていて、著書のイラストそのままの、小柄でかわいらしい声の方でした。浅見さんが進行しながら、ニキさん

から話を上手に引き出して、お二人でやりとりしている様子はまさに掛け合い漫才のようで、会場からは何度も笑いが起こっていました。

自閉症の人は、体力の配分が難しかったり、自律神経系の問題があったり、身体感覚(見え方、聞こえ方、感じ方など)の違い(過敏さ・弱さ)があることから、『自閉症は身体障害』だと考えて、違うことを前提に『環境調整』(例えばサングラスやイヤーマフを使うなど)することが必要だと話されていました。

自閉症の三つ組みの障害の一つの「想像力の障害」については、想像力がないとは限らず、想像が過剰であったり、想像するけれど間違っている場合もあり、『想像力が世俗の生活の役に立ってくれない障害(道楽専用想像力)』との説明は、言い得て妙でした。

また、『ネタバレ化支援』をキーワードに、学校では「なぜ、それをしなくちゃいけないのか?」「こうなるために、今これをやっています。」などの説明がされないまま、やらされていることが多いので、誤学習(「想像力の障害」による間違っただけの思い込み)を防ぐために、もっと『ネタバレ』させてほしい(正しい「情報」を与えてあげてほしい)と話されていました。

社会ではみんな得意なことで仕事しているのに、「苦手なことこそ、がんばれ」と言われたことで、苦手を克服しておかないと社会に出られないと考えてしまったり、「金儲けは汚い」と教えられたことで、お金を稼ぐことに罪悪感を持ってしまったりする人もいますので、世の中のしくみを教えることや金銭教育の大切さについても話されていました。

その他、自閉症当事者のニキさんならではの『俺ルール』エピソードなど、貴重なお話が盛りだくさんの講演会でした。

当日のニキさんと浅見さんの書籍売上の収益は、東日本大震災の義援金として寄付されました。

書籍は和歌山市分会でも何冊か購入していますので、購入希望の方は藤原さんまでお問い合わせください。



ニキさんの手書きサイン



### 親子クッキング

夏休み恒例の親子クッキングを、平成 22 年 8 月 12 日（木）と 8 月 25 日（水）に行いました。8 月 12 日のメニューは「手打ちうどん、おにぎり、パフェ」で、親子 20 名が参加しました。昨年好評だった手打ちうどんは、今年も、足でがんばって踏んで、上手にできて、いろんなトッピングで楽しみました。



8 月 25 日は、16 名の参加でした。「屋台」というテーマで、「焼きそば、フランクフルト、かき氷、ポップコーン」を作りました。

みんなで持ち寄ったかき氷機で氷をかくのが楽しくて、何度も「おかわり！」したほどです。

ポップコーンも、キャラメル味がビックリするほど簡単においしくできました。



### ボウリング大会

平成 22 年 6 月 13 日（日）

ラウンドワンにて

参加者 46 名

みんな揃って、集合写真をラウンドワンのお姉さんに撮ってもらった後、ゲーム開始。



薄暗く、大きな音楽の響く中も、みんな乱れることもなく、2 ゲーム楽しみました。

## 研修会【お母さんの交流会】

第1回交流会 平成22年6月29日/ 参加者23名(会員13名・会員外10名)

第2回交流会 平成22年9月14日/ 参加者14名(会員11名・会員外3名)

中央コミュニティセンターにて

就学期の子をもつお母さん対象に、会員外の参加者も含め、悩みごとなどについて話し合う交流会を行いました。お子さんが地域の小学校に通っている方々は、小学校での友だち関係の悩みの話題などが中心。また、就学前の子をもつお母さんたちは、「学校をどうしようか」「支援学校がいいのか、地域の学校がいいのか」などの悩みが中心でした。



現在困っていることや気になっていることなど、一人で抱え込まず、他の人に聞いてもらったり、情報交換したりなど・・・そのような場所があることはとても大事ですね。

今後も、多くのお母さんたちにとって、楽しく、有益な場所でありたいように。

## 役員会から

一人で悩まないで

役員会へ行こう

ご存知のように、日本自閉症協会の役割は、自閉症の研究をはじめ、政治や社会への啓発などとても大きいものです。私たちの会は、それに属するものとしての役割を担うとともに、地域に生きる仲間たちのお互いのつながりも大事にしたいと考えています。小さな分会には小さいなりの、お互いに密に協力し合える力もあると。

私たちの子どもたちは、それぞれ少し難しい問題を抱えています。年齢によって、親としての悩みや心配事も変わっていきます。誰にも言えず、一人で悩みを抱え込むようなこともあるでしょう。そこで、役員会として、そういうときに何とか助け合うことができないか、ということを考えました。たとえ問題解決までには至らなくても、役員たちは、素人ながら、せめて一生懸命「聞く」ことはできるし、いっしょに考えることはできると思います。

何か困っていることがあるとき、一人で悩まず、ぜひ気楽に役員会に来てください。

(役員会は、月に一度ぐらいの頻度で行われていますが、事前に事務局に連絡いただければ、話を聞くための時間を取ることは可能です。)

ふれあいランチ  
 ♡バレンタイン・パーティー♡

平成 23 年 2 月 11 日 (金)

ホテルグランヴィア和歌山にて



昨年 10 月に予定していたバスツアーが季節はずれの台風で中止になったため、「何か親子で楽しめる催しを・・・」ということで、ホテルでのお食事が企画されました。



当日は雪が降り、JRも

遅れ、一組遅くなっ  
てしまいましたが、61 名の参加がありました。

会場の慣れない雰囲気  
に緊張して乱れる子  
もいましたが、一品  
ずつ出される手の込んだ



お料理に目を輝かせ、自然と笑顔になっていました。

食事の後は、ビンゴ大会。ビンゴを回したい子が何人かお手伝いしてくれました。景品は、一足早いバレンタインチョコ♡でした。少しの時間でしたが、カラオケも楽しみました。



ビンゴゲーム  
 子どもたちは大盛り上がりでした。





速水さんにふれあいランチの感想をいただきました。

バレンタインの食事会やビンゴやカラオケなど、楽しい会を開催して頂き、ありがとうございました。

子どもはホテルの薄暗い部屋が怖く、チャレンジする機会もなかったのですが、家庭では経験できない豪華な食事ができ、カラオケも怖いはずが、先輩のお姉さん方が歌ってたりで、リラックスして踊ったり、ビンゴの手伝いしたり・・・最初来た時は「帰りたいよ」と言っていた子どもは、ニコニコでした。すごく思い出になり、近鉄へきたら、「ハンバーグ食べたね～」と話してくれます。親子で貴重な経験出来ました。

役員の方々、本当にありがとうございました。

平成 22 年 11 月 13・14 日（土・日）  
和歌山ビッグホールにて

人権フェスタ

今年も、ブース展示で参加しました。当会の行事写真やポスターでの活動内容の紹介、子どもたちの絵画作品の展示、図書販売、自閉症啓発パンフ配布のほか、今回はポラリスの協力を得て発達相談会（14日のみ）が実施されました。3組からの相談がありました。

野間せつ子さんの感想です。

人権フェスタへ行ってきました。みんなワイワイと楽しんでいました。その場所にポラリスの辻先生がいらして、息子の問題行動を親身に聞いてくれました。どうしたらその行動が改善されるのか、先生が体験したいろいろな症例をあげてもらい、「こうしたらいいかも・・・」とアイデアをもらいました。目からウロコでした。

早速自分なりに実践しましたが、そう簡単にうまくいなくて・・・。「もう諦めて、永遠にこの行動に付き合っていこう」と覚悟したら、段々と治っていき、今は何とかその行動も治り、安定しました。ひとまずヤレヤレかなあ～～

特別なニーズを持つ親子のための  
支援ガイドブック  
～はじめの一歩～

紹介しま～す →

この2月に、特定非営利活動法人きのくに子どもNPOが発行したガイドブックです。和歌山で子育てする中で、困ったときや不安なとき、相談できる所、専門的な医療やアドバイスが受けられる施設、団体の情報のほか、教育・福祉はもちろん子どもの余暇活動まで載っていて、まさにかゆいところに手が届く一冊になっています。

お問い合わせは、きのくに子どもNPO ☎ & FAX 073-452-7710

20冊ほどお預かりしたものがありますので、こちらにもどうぞ！

尾崎富久子



## 岡先生のワンポイントアドバイス

大震災から何を学ぶべきか

この度の未曾有の東北地方太平洋沖地震により被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。

日本は「世界一の地震国」として知られ、耐震工事、防災対策と準備をしてきたにもかかわらず、自然の脅威に人は、なすすべも無くたたずむしかない存在だと言うことを思い知らされました。しかし、適切に対処することが極端に困難な中でも、普段から防災意識、防災力を高めておくことは大切です。今回震災の中でも、とっさに反応し命を守った方たちがおられるのも事実なのです。私は、阪神・淡路大震災（1995年）を対岸の香川県で、スマトラ島沖地震（2004年）も対岸のランカウイ島で経験。今回の震災もたまたま住んでいた所が東か西かの差で難をのがれました。和歌山県にも近い将来にきっと来る東南海・南海地震への備えを今一度見直し、危機管理を高めていく必要があると思います。

突然のできごとへの対応が最も難しいことで知られるのが自閉症の人たちです。特に、自閉症児は普段と違う場所や生活リズムだとたいへん不安になります。大きな声をあげたり、むやみに走り回ったり、周りの人に迷惑をかけたりすることがあるかもしれません。大勢が広い場所に一緒に寝泊まりする避難所では、無知からくる誹謗中傷や冷やかな視線、周囲への気づかいから、とても一緒にいられなくなります。自閉症児を抱える家族たちが、何日間も車の中での生活を余儀なくされたケースもありました。今もなお福祉避難所の数が不足しているのも事実です。被災した福島県の知的障害者を船で神奈川県に避難させ、福祉施設で受け入れたという話も聞きましたが、こういった機転のきいた支援はごくわずかであろうと思います。

いざという時のために、日本自閉症協会が発行している「自閉症の人たちのための防災ハンドブック」の支援者向けと本人・家族向けは、とても参考になりますのでぜひ一読ください。また、支援者向けに

附属特別支援学校 岡 潔

～防災力を高めよう～

については、携帯版も出されています（日本自閉症協会HP）。自閉症の人たちが過ごしやすい環境、それは誰にとっても過ごしやすい環境になりえる事を分かってほしい。ぜひ理解から支援につなげていただけたらと願っています。

災害は、どんな季節に、何時、どこで発生するか予測できません。家族がそろって家に居る夜などに被災することもあれば、この度の東日本大震災のように、家族がそれぞれバラバラで外に出ている日に遭遇することもあります。日頃から避難ルートや避難場所を決めておくことや避難練習をしておくことも必要です。また、ライフラインが途絶えますし、公的な援助も3日間は遅れますので、持ち出し品を準備・常備しておくことも大切です。今回の震災で、水や食料はもちろんのこと、おむつ、薬、乾電池、燃料など、不足する品物が分かりましたよね。それらに加えて、自閉症児ゆえに必要な物もあります。特別な食べ物やこだわりの品、安心グッズなどですね。

また、自閉症児は家族とはぐれても自分からヘルプサインをなかなか出すことができません。最近では、援護を必要としていることを明記した防災ワッペンや防災カード（IDカード）、防災手帳といったグッズも注目されています。誰かに見つけてもらい連絡いただけることも大いにあるからです。もちろん、これらのグッズを使わずとも、普段から地域交流を通して顔を知ってもらっておくということも必要かもしれませんね。

災害後、とにかく生活と心を元に戻すには、被災された方たちの懸命な努力と周囲からのあたたかい支援が必要になってきます。失ったものが多いほど立ち直るのにも時間が必要です。多くの被災された方が、少しでも早く安心できる生活が再び取り戻せることを、祈るばかりです。

つながり文化祭

平成 23 年 3 月 6 日 (日)  
 県立体育館にて

当分会の、つながり文化祭へのバザー参加は、とても長い歴史があります。会

の運営資金を稼ぐべく、毎年、提供品集めや値つけ、当日の販売など、子育てで大変な中、お父さんお母さん方が協力し合いがんばって続けてきました。

そのバザーも、時の流れとともに状況が変化し、寂しい限りではありますが、会として参加の意義が薄くなってきたようです。長年、骨を折ってくださった方々、特に花井さん、本当に感謝です！

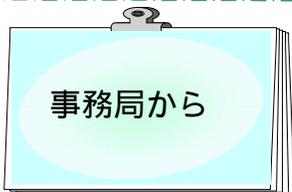


書籍販売コーナー

以下の自閉症関連の本を、分会事務局から購入できます。

日本自閉症協会発行の本をはじめ、一般の本でも会員価格で買えるので、お買い得です。お問い合わせは、藤原さんまで

日本自閉症協会発行	トモニ療育センター発行	
自閉症の手引き	育児と教育	戸部けいこ 光とともに 1～15巻
こんなとき どうしたらいい	ともに第15号	ニキ・リンコ 自閉っ子、えっちらおっちら世を渡る
自閉症ガイドブック 乳幼児編	ともに第16号	ニキ・リンコ 俺ルール！自閉は急に止まらない
学齢期編	照る月	ニキ・リンコ+仲本博子 自閉っ子、深読みしなけりゃうまくいく
思春期編		ニキ・リンコ×藤家寛子 自閉っ子、こういう風にできてます！
成人期編		浅見淳子 自閉っ子と未来への希望



事務局から

今年度も、勉強会やいろいろな楽しいイベントを企画していきたいと思っておりますので、どんどん参加してください。また、秋には、NHKフォーラムが和歌山で開催されます。ご協力よろしくお願ひします。

伊勢家富士雄

編集後記：今回は、昨年度の行事などの他に、少し先輩のお母さんたちのお話を伺いながら、何か特集のような記事を書きたいと考えていました。まだ充分準備ができず、次号に見送ることにしましたが、今後またスタッフが皆さんにいろいろなお話を伺いに行くとお願ひしますので、よろしくお願ひします。

編集スタッフ：尾崎富久子・江川かがり・藤原昌子・植野比呂美

《発行》イコラ編集部（連絡先）植野比呂美